

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

配布数 6

回収数 6

事業所名 アートチャイルドケアSEDスクール神戸王子

	チェック項目	割合(%)			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	無回答		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33.3%	66.7%	0.0%	少し狭く感じることもありますが、基準に沿ったスペースであるため、大型遊具の着脱や活動場所使用の順番などを工夫して、常にスペースの確保をしております。また、3名同時にセッションを行う時は特に、どのような配置にするか、常に職員同士で相談しながら取り組んでおります。	
	2 職員の配置数は適切である	0.0%	100.0%	0.0%		各時間3名ずつ来所があっても対応できる人員の確保が理想ではありますが、引き続き余裕のある職員配置を目指して採用に取り組みます。様々な指導員の視点からお子様に係われるよう努めて参ります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	33.3%	33.3%	33.3%	お子様一人ひとりのセッション内容に応じてレイアウトを変更したり、使う教材を工夫して、集中しやすい空間づくりをする等、工夫しております。トイレの入口に段差があるため、踏かないよう危険を知らせるイラスト入りのポスターを掲示したり、ビニールテープを貼って視覚的に注意を促す等、工夫しております。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100.0%	0.0%	0.0%	新しい施設のため、このまま清潔であるように日々努めております。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%	0.0%	0.0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	ガイドラインの言葉そのものが利用者様にはわかりにくい部分が多く、申し訳なく感じたこともありましたが、今後よりわかりやすくお伝えできるよう、努めてまいります。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50.0%	0.0%	50.0%	今回のアンケートが初回となっております。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83.3%	16.7%	0.0%	他SEDスクール、保育園への研修に行かせていただく機会を有効活用しています。2019年度より系列校との事例検討会が行われますので、意見交換等しながら、職員の知識向上に努めて参りたいと思います。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50.0%	16.7%	33.3%		
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	0.0%		
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%	0.0%	0.0%		
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%	0.0%	0.0%	共同プログラムの実施など、同一の空間で複数の子どもが楽しく取り組める内容をチームで検討しております。同室で複数のセッションが入っている場合には、指導員同士で事前に声のかけ合いを行っております。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83.3%	0.0%	16.7%	季節感を意識し、本人の興味・関心を引き出すよう、多方向からのアプローチを実践すると共に、目標・ねらいの達成に向けた工夫をしております。指導員が固定されていないため、それぞれの資格、経験を活かした支援が提供できていると思います。また、指導員がスクール長に相談しやすい環境なので、安心してプログラムが立てられております。	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%	共同プログラムになり得るケース等について、職員同士の振り返りやカンファレンスなどスクール内で相談し合える環境が整っております。	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%	0.0%	0.0%		
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%	0.0%	0.0%	職員同士のカンファレンスの時間があることがとてもありがたく、一人ひとりの利用者様の様子を全員で把握・共有し、意見等を交換することができております。	
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%		
	19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83.3%	0.0%	16.7%		
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83.3%	0.0%	16.7%			
21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	灘区子ども部会にスクール長(もしくは代理)が出席し、他事業所等との繋がりができております。小学校へ上がるお子様がいらっしゃるため、今後実施していきたいと思っております。		

関係機関や保護者との連携	22	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	66.7%	16.7%	16.7%	
	23	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33.3%	33.3%	33.3%	
	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83.3%	0.0%	16.7%	支援センター主催の部会に参加しております。
	25	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	100.0%	0.0%	0.0%	支援センター主催の部会に参加しております。灘区子ども部会にスクール長(もしくは代理)が出席し、他事業所等とも繋がりができております。
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	0.0%	保護者様とのふり返りの時間があることで、保護者様の思いを常にうかがえる環境が整っております。この時間は支援を考える上で、大きいと感じております。
保護者への説明責任等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	契約の際にはスクール長からお話をし、利用者様からの質問に関しても、きちんと説明ができるようにしております。
	28	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%	0.0%	0.0%	
	29	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	毎回のふり返りで出た質問には、丁寧にお答えすることを心がけております。
	30	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83.3%	0.0%	16.7%	丁寧な対応を心がけております。
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	66.7%	16.7%	16.7%	
	32	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	0.0%	書棚、デスクの施錠等、留意しております。
非常時等の対応	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	0.0%	保護者様とのふり返りの時間があることが非常に大きいと感じております。必要に応じて資料の紹介等も行っており、視覚支援や適当な声の大きさ、スピードを常に意識しております。
	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83.3%	16.7%	0.0%	避難経路について、職員間で共有しております。
	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	50.0%	50.0%	0.0%	
	36	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%	0.0%	0.0%	
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	66.7%	16.7%	16.7%	
38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%	0.0%	0.0%		